

ぐどう うた 求道の歌

■ 楽曲データ

歌詞：木邊孝慈 作詞

楽曲：市川喜和 作曲

発表：仏教音楽協会 1931年

初演：—

初出：『佛教聖歌 第三回発表』 佛教音楽協会 1931年

管理番号：M0701

■ 創作の経緯

仏教音楽協会より「仏教聖歌」として発表（第3回）。曲は第4回曲譜募集の当選作。普及のため、日本ビクターよりレコードが発売された。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第2巻収録

底資料：『佛教聖歌 第三回発表』 佛教音楽協会 1931年

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

◆ 作詞者・作曲者について

作詞は、木邊孝慈上人（1881～1969）。本願寺第21代明如上人の二男としてご誕生され、のちに真宗木辺派第20代門主となりました。

作曲は、市川喜和。どのような人物だったのかは、残念ながら現在では分かりません。市川の作品が仏教音楽協会の作曲募集で入選作に選ばれた後、発表までに、作曲家の山田耕筰（1886～1965）が加筆・修正を行いました（山田による自筆譜が残っています）。

◆ 曲について

作詞の孝慈上人は、法味愛樂（ほうみあいぎょう）のお念仏の生涯を送られました。この作品を歌い、聴く私たちにも、如来さまのお慈悲を喜んでお念仏の生活を送ってほしい、という気持ちが込められている、と受けとめることができるでしょう。

◆ 演奏のヒント

① 2小節目2拍目の「ド」は、前後の音に比べ音の高さはあがりますが、弱拍にあるので、ぶつけないよう、柔らかく歌いましょう。1番はメロディーの高

低と言葉のアクセントの位置が異なるので、注意しましょう。

② 3小節目2拍目の8分音符は、落ち着いて歌いましょう。ここで急いでしまうと、曲のゆったりとした雰囲気が壊れてしまいます。7・10・14・15小節目に出てくる8分音符も同じように気をつけましょう。

③ 4小節目の「ミ」のピッチ（音高）に気をつけましょう。3・4小節目「ミ」→「レ」→「ミ」のように、いったん下がってまた同じ音に戻る音型では、三つめの音が低くなりがちです。7・8小節目「ラ」→「ソ」→「ラ」も同じです。

④ 5小節目「むみょう」は、「m」の子音を丁寧に（でも遅くならないように）発音しましょう。

⑤ 6小節目3拍目「レ」はメゾフォルテ（やや強く）ですが、カミすぎず、響きのある柔らかい声で歌いましょう。

⑥ 1番10小節目「めぐる」、11小節目「おぐるま」の「ぐ」は、単語の途中にあるので、できれば鼻濁音で歌いましょう。一方、2番11小節目の「行人」の「ぎ」は語頭なので濁音です。

⑦ 13小節目にある1オクターヴの跳躍は、ずりあげてしまわないようにしましょう。

⑧ 最終小節の「ラ」は低い音からあがるので、強くなってしまいがちですが、歌詞は語尾なのでぶつけないように。丁寧に歌いおさめましょう。

◆楽譜

原曲は斉唱です。同声二部合唱版は、『讃歌集 二部合唱』第2巻に掲載されています。

解説執筆：山口篤子（本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室] 研究助手）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 65（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第192号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.